

2010年度

科目名	哲学				
担当教員	池田 清				
配当	教育4			コード	43060
開期	通年	講時	木曜日3限	単位数	4
授業テーマ	写真 映画 ト라우マ 欲望 そして無意識				
目的と概要	街にあふれるポスターを見たり、ドラマや映画を観るとき、何が起きているのでしょうか。例えば、新しい商品を欲しくなったり、登場人物に同情して泣いたり、怒ったりします。つまり、メーカーが買って欲しいものや、監督が泣いたり怒ったりして欲しいことに、われわれは反応してしまいます。私の「～したい」という欲望は、私以外の他者の欲望によって自由に操られているということです。私の欲望と他者の欲望はどういう関係にあるのか、これを知ることが授業の概要であり、目標です。				
成績評価法	出席(50%)、本試験(50%)から総合的に評価します。				
テキスト	テキストは使用しません。適宜資料を配布しますが、講義ノート中心です。				
参考書	授業中、その都度指示します。				
履修に当たっての注意・助言	哲学は、楽しいのです。				
講義計画					
<p>◎ 哲学は、訳の分からない難しいへ理屈でもなければ、現実離れた抽象的な言葉遊びでもありません。実は、日常生活の中で「どういう意味何やろ?」、「何でなんやろ?」と思った時に、もうすでに哲学の世界に一步足を踏み入れているのです。</p> <p>われわれは、映画を見たり、写真を見たり、また夢を見たりしていますが、こうした日常的な経験の中で何が起きているのでしょうか。何で、ドラマを観て、泣いてしまうのでしょうか。授業では、映画や写真などの映像を見るということは、どういう経験なのかを問題にしながら、その経験を可能にしている様々な要因を洗い出し、くわえて、これまでの哲学史上のテーマ・考え方・概念などを紹介していきます。</p> <p>その場合、重要なのは、自分自身の日常生活に疑問を抱くことです。この日常生活への反省からすべてが始まります。</p> <p>哲学の授業を有意義かつ面白いものにできるかどうかは、皆さんにかかっています。積極的に授業に参加して下さい。</p> <p>I 物を見ることの複雑性 1 物の同定と物による行動への強迫 2 精神分析の見解 3 現象学の見解 4 自己認識とそのほつれ</p> <p>II 写真を見る／見せられる私 5 バルトの写真論その1 6 バルトの写真論その2 7 ソシュールの言語論 8 ラカンのシニフィアン論 9 写真・言語・無意識の交錯</p> <p>III 映画を観る／魅せられる私 1 0 映画の物語世界の構成 1 1 メッツの映画論その1 1 2 メッツの映画論その2 1 3 ラカンの自我論 1 4 試験対策 1 5 まとめ</p> <p>IV エディプス論—父親殺しと欲望 1 フロイトのエディプス論 2 ラカンのエディプス論その1 3 ラカンのエディプス論その2 4 見る／観る条件としての自我の統一あるいは分裂</p> <p>V 映画論再考 5 映像単語説その1 6 映像単語説その2 7 映像単語説批判 8 映画論と言語論の交錯</p>					

VI 夢を見る／見せられる私

9 フロイトの夢理論

10 フロイトの「イルマの注射の夢」の自己分析

11 ラカンによる「イルマの注射の夢」解釈その1

12 ラカンによる「イルマの注射の夢」解釈その2

13 分身たちの世界

14 試験対策

15 まとめ